

加(するレクリエーション)向けの新たな試みを行っています。

また、中播磨リハ協議会・姫路市リハ検討会・中播磨シームレス研究会・姫路市国民医療推進検討協議会等に積極的に参加し、医療講座(年7回程度)・地域健康教室(年6回程度)・看護フェア(年1回実施)を主催することで、地域の住民に対して疾病予防を推奨しています。これらの活動を通じ地域貢献に力を注いでいます。

臨床面では、リハカンファレンスや在宅サービス担当者とのミーティングを積極的に行い、スムーズな退院、維持期への移行を心がけています。入院・外来を問わず、装具診にて適切な装具等の検討を多職種により取り組んでいます。摂食嚥下障害に対しては、耳鼻科医と連携しながら、随時VE、VF検査を行い、ST、病棟スタッフ、栄養士を中心に嚥下・栄養

状態の改善を図り、効率的なリハ訓練が行えるよう心がけています。リハの大きな妨げになる痛みについては、麻酔専門医によるペインクリニックと連携して治療を行い、できるだけ痛みの少ないリハを目指しています。

脳機能画像検査として拡散テンソル画像によるトラクトグラフィやfMRIを用いて、脳の可塑性や疼痛との関連を中心に検査を行い、本年度からは姫路石川脳機能画像研究所を設立し、各研究を更に進めていく予定です。



医療法人仁寿会石川病院: 寺本 洋一

**平成21年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。**

## 新専門医の抱負

### 小山 哲男 西宮協立脳神経外科病院

このたび、日本リハビリテーション医学会の専門医に加えていただきました小山哲男です。当方、平成4年に医師免許の後、しばらく麻酔科とペインクリニックの領域に関わっていました。多くの患者さんに接するうち、痛覚の大脳生理に興味をもち、その後専ら研究に従事していました。リハビリテーション医療を志したのは今から5年前、研究留学先の米国からの帰国時です。その頃はなんとも安易に「リハは大脳生理の臨床応用」と考えていました。しかし診療を始めてみると、リハビリテーション医学の守備範囲の広さに圧倒されました。脳卒中、脊髄損傷はもちろん、呼吸器や循環器、切断等までを含め総合的な診療能力が求められます。回復期病棟等で主治医となる場合、通常の内科的な管理にも精通しておく必要があります。こんなに広範囲の診療科の「専門医」の認定を受けたこと、画期的なことです。医師免許取得から17年も経ってしまいましたが、私にとっては初めての基幹領域の専門医です。今後は専門医の名に恥じない、総合的な臨床力を身につけたく思います。よろしくお願ひ申し上げます。

### 佐々木 万弓 慈恵医科大学リハビリテーション科

2000年度に関西医科大学を卒業し、整形外科で6年間基礎を学んだ後、リハビリテーション医学について勉強を始めました。私がリハビリテーション医学を学ぶきっかけとなったのは、病気だけでなく、障害の程度や社会環境に応じて個人が人間らしく生きるために何が必要か、どのような社会的サポートが必要かを考え、提供できる仕事がしたいと思った事からです。運動機能評価はもちろん、嚥下機能、心肺機能、生活環境調査ほか、統合的な分野を扱う科であり、まだまだ駆け出しの私にとっては勉強することばかりですが、1つずつ整理しながら、成長していきたいと思ひます。2009年度より東京慈恵会医科大学病院でお世話になる事となり、関西と関東のリハビリテーションの進め方の違いを感じる今日この頃、このような勉強の場を与えて頂き感謝いたしますと共に、この機会を大切にがんばってまいりたい所存です。これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 田中 尚 森之宮病院 神経リハビリテーション研究部

私は、昭和63年近畿大学を卒業後、神経内科医として、脳卒中や神経難病の患者さんの診療に関わってきました。今回、リハ専門医をめざして、勉強してきましたが、専門医に認定していただくこととなりました。症例報告の準備や試験の勉強をすることで、装具学、運動学など、今まで不勉強であった分野の視野が広がったと思ひました。しかし、まだまだ、リハ医として未熟者であり、これからも技術の向上に努め、患者さんのために、少しでも役立てるようになりたいと思ひています。臨床研究としては、リハビリ患者の深部静脈血栓症の診断、小脳・基底核病変による高次脳機能障害に関心を持っており、総会などで発表予定です。今後、リハ専門医として、チーム医療のリーダーシップをとっていきけるよう努力していきたいと思ひます。よろしくご指導・ご鞭撻をお願ひいたします。

### 貴宝院 永稔 大阪医科大学

私は平成15年に母校の大阪医科大学リハビリテーション科に入局後、内科、外科、救急、麻酔科、小児科を2年間かけてローテートし、その後は同リハビリテーション科で主に急性期のリハビリテーションに4年間携わり、現在は大隈リハビリテーション病院で脳卒中患者を中心とした回復期リハビリテーションを受け持っております。

そもそもリハビリテーションを専門にしたいと考えたのは、今から思い起こせば人と違う道を選びたかったという変な動機でした。この変な動機の為もあり、大きな不安や焦燥感をいつも抱えていましたが、専門医受験の為に沢山の事を日々勉強していく内に、この不安や焦燥感を遂に吹き飛ばす事が出来ました。専門医試験に合格出来た事は嬉しい事ですが、今回の専門医試験が私のリハビリテーションの糧になることが何より嬉しいです。忙しい中、勉強をする機会を与えて下さった上司の諸先生方に本当に感謝しております。有難う御座いました。今後も研鑽を積み、私のリハビリテーションを完成させていきたいです。これからもご指導・ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

## 寺山 修史 NPO法人リハビリテーション推進機構CRASEED

この度リハ専門医の末席に加えて頂くこととなりました。思い返しますとリハの重要性に初めて気がついたのは総合内科医として地域の一般病院に勤務した時からではないかと思えます。訪問診療、保険福祉事業に関わる中で地域リハの実情を目の当たりにするとともに、お年寄りたちが訪問リハや通院リハで健康を維持し在宅での生活を継続することの重要性を実感いたしました。さらに地域医療に生かせるリハについて模索していたところ、平成16年にCRASEEDのリハビリ育成プロジェクトに出会い、翌年よりその一員となりリハ病院、大学病院、重症心身障害児施設等で経験を積ませていただいております。リハ専門医としての私に何ができるのかを考えますと、「リハ医は指揮者である」とプロジェクトリーダーである道免教授に言われた言葉が思い出されます。専門医となった今だからこそ、指揮者一人では演奏はできないのだということを肝に銘じるとともに、指揮者として演奏家（＝セラピストだけでなく患者や利用者に関わるすべての職種）たちの個性を最大限に引き出し、観客（＝患者、家族、地域住民の皆様）を感動させる演奏を常に心がけたいと思っています。現在は病院勤務の身ですので、まずは目の前の患者様に質の高いリハを提供できるよう努力いたします。

## 奥田 佳延 多根脳神経リハビリテーション病院

この度、多くの先生方の御指導と御協力を頂き、リハビリテーション専門医の認定を受けることができました。普段、多少の違和感がありますが、「神経内科医」を名乗って仕事をしています。日頃、リハビリテーションと関わる場面も多く、その理解を深めるべきと考えておりました。今回の専門医受験にあたっては、その要件を満たすべく、自分なりに真剣に、研修・勉強をしたつもりです。実際、日常診療において、その時の知識が役に立っていると思うことがしばしばあります。その反面、リハビリテーションの標準レベルを知ったが故に、力不足を自覚することも多くなりました。今後、さらに知識や経験を蓄え、「リハビリテーション専門医」を自称できるように努力したいと思います。

## 小口 健 白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院 リハビリテーションセンター

専門医と認定して頂き有難うございます。また阿部和夫・甲南女子大学教授はじめご指導頂きました諸先生方有難うございました。白浜はまゆう病院は和歌山県の南部に位置し、風光明媚な所ではありますが、高齢化が深刻な地域でもあるためリハビリの需要は多く、それに対応するべく現在理学療法士25名作業療法士11名言語聴覚士5名と共に頑張っております。当院では救急医療から訪問診療まで幅広く行っており、リハビリも急性期病棟、回復期病棟、医療・介護療養病棟、外来、訪問を対象に行なっております。リハビリはまだまだ勉強していかなければならないことばかりですが、地域に質的にも量的にも十分なリハビリ医療を提供していくことが課題と心得ております。今後とも御指導・御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

## 畠中 めぐみ 森之宮病院 神経リハビリテーション研究部

私は平成7年卒で、救急医療や循環器内科を経て神経内科を専修してきた中でリハビリテーションは普遍的で大切な素養と考えるようになりました。未だ浅い経験ながら先輩方のおかげで充実した研修を重ねています。脳卒中中心の回復期リハビリテーションでは、急性期や維持期との連携や、コメディカルと共にやりがいある協同作業をめざすことが日々の懸案です。ICDとしては大所帯の多職種への教育や患者権利に配慮した感染制御に留意しています。神経リハビリテーションは臨床疫学、脳科学的検証、神経生理学的手法での回復促進へのアプローチなど、学ぶべきことは無限にあり、臨床業務と同等に重要と考え、引き続き多くの指導を受けながら地道に研鑽を続けて参ります。少しでも前向きに明るく開けるような仕事・役割を担うべく精進しますので今後ともご指導よろしく申し上げます。

## 相良 亜木子 滋賀県立成人病センター

皆様、はじめまして。この春、リハビリテーション医学会専門医に認定いただき、このようにご挨拶の機会を頂きました。

大学卒業以来を振り返ると、大阪での研修医時代や京都で救急医療を学んでいた頃、そしてリハ医を志して、大阪・兵庫で勉強を始め、さらに滋賀に来て、経験を積んで・・・と、まさに近畿各地でたくさん先生方にご指導頂きました。その中には、この地方会に所属する先生が本当に多く、改めて皆様に感謝申し上げます。

これまで脳卒中・骨関節疾患に携わることが多かったのですが、現在勤務する滋賀県立成人病センターでは、心臓リハやがんのリハビリなどを学ぶ機会もあります。専門医認定を新たなスタートとし、さらに幅広く、様々な疾患の患者さん達にふれ、そこから多くを学びたいと思います。今後とも近畿地方会の先生方はじめ、皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

## 評議員選挙に向けての調査実施のご報告

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会  
代表幹事 菅 俊光 (関西医科大学附属滝井病院)

謹啓 盛夏の候ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、(社)日本リハビリテーション医学会では、平成22年3月に評議員選挙が実施されることになりました。近畿地方会では、7月4日に開催された地方会総会において選挙による混乱を防ぐために会員の皆様へ事前に立候補のご意志を調査することが了承されました。この場をお借りしてご報告申し上げます。詳細は近畿地方会HPなどのご案内させていただきますが、8月に用紙を会員の皆様へ送付させて頂く予定にしています。会員の皆様にはお手数をお掛け致しますが、ご協力を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

追伸：日本リハビリテーション学会HP会員登録につきましても、合わせてお願いいたします。